

安心・安全・信頼の空間づくり

—「課題に取り組み積極的に生きてゆく力」をはかる評価—

総合的な学習の時間 谷 直樹

1. 主題設定の理由

(1) テーマ設定の理由・背景

昨今、登下校中の子どもが巻き込まれる交通事故や東日本大震災及び台風・集中豪雨等による自然災害、さらには、学校内外における不審者による子どもの安全を脅かす事件が発生するなど、学校や周辺地域における子どもの安全の確保が喫緊の課題となっている。

国も「学校安全の推進に関する計画」を平成24年4月に閣議決定したところであり、地域ぐるみで子どもの安全を守る環境の整備を推進するとともに、子どもが自ら安全な行動をとれるよう安全教育を支援するなど、学校安全の取組を推進しているところである。

附属池田小学校では、文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、平成21年より「安全科」を設置している。独自に作成したカリキュラムをもとに、全学年で毎週1時間各担任が安全科の授業を行っている。また、平成22年にはWHOによるInternational Safe Schoolの認証を受け、平成25年には再認証された。

安全教育として、子どもを守るための様々な教育が行われているが、「知らない人には近づかない」など危険に出会うことを前提にした教育だけでは、子どもたちに社会への不安感や不信感を植えつけてしまうこともある。子どもへの犯罪を防ぐには、自分で身を守る力をつけることが何より大切であると考えられる。そこで、本校安全科では、子どもの自尊感情を育て、主体的に危険から身を守る力を鍛える授業を目指している。

一方、附属池田中学校では平成16年から市民性をはぐくむ授業を始めた。中学校3カ年の中で、1年次は自分たちの住む地域や国を学ぶことにより、自分たちが暮らす地域の特徴や日本と海外の違いについて知り、2年次では、日本人のアイデンティティを海外へ発信することができるよう、日本の伝統文化について学習した。3年次ではアジア圏を念頭に置いた国際交流を目指し、国際的な発進力のある生徒を育ててきた。そのほか、人権学習や平和学習についても併せて取り組んできた。この流れは現在の「総合的な学習の時間」においても継続されている。一方、近年子どもの安全を脅かす自然災害や事件・事故や、ネットワーク環境の発達など、社会環境の変化によるリスクが焦点化されている。このため、総合的な学習の時間や生徒会活動を通して、安全教育の充実の必要性にも力を入れ、小学校に続きISSの認証を受けた。またSafety Promotion Schoolの認証も受け、継続した取り組みを行っている。

附属高等学校池田校舎は、平成15年より通称ユネスコスクールに加盟し、ESD(持続可能な発展のための教育)に深く関わってきた。学校教育方針の一つに国際教育をかかげ、高校1・2年次に教科「総合の時間」を設定し、国際教育委員会と各学年が協力し学習を進めている。

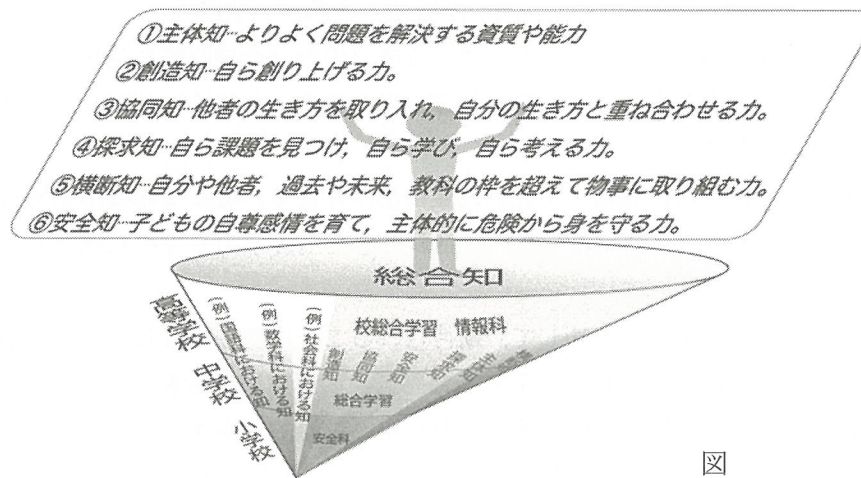
小中高が連携して研究することによって、次に述べる安全・総合が考える人間像に近づけることができると考える。

(2) 安全科・総合的な学習の時間における「知」 - 「知」をはかるには-

私たちが考える子どもにつけさせたい力(総合知)は、「自己を知り、他者を受け入れ、関係性の中で課題に取り組み積極的に生きてゆく力」である。その力(総合知)を身につけられる子どもを12年かけて育てたいと考えている。

次の図に、総合知を支える力(知)を示す。

図に示した①～⑥の知と各教科の知を結集させ、社会に役立つための判断を構築できる力を身につけて、家族・友人→地域→社会へと活動の場を広げていける子どもを育てたい。



図

「知」を鍛える授業展開3つの視点において目指す児童・生徒の姿

	「知」の認識	「知」の構造化	「知」の活用
「自己を知り、他者を受け入れ、自然を含めた他者との関係性の中で課題に取り組み、積極的に生きていく力」	生活などから自分たちの現状（課題）をつかむことができる	資料をもとに、現状との比較を通して分析することができる	学んだことをまとめたり、発信したりすることにより、自分の中での学びをより広げることができる
小学校	他者との関わり方を想起させ学級の中での自分の役割や居心地の良さを振り返ることができる。	資料やアンケート結果等をもとにして、学級の中での学び合い助け合える良いコミュニティ作りの方策を探ることができる。	ワークショップをしたり、まとめて発表したりすることを通して、自分達の考えを発信することができる。
中学校	日常生活や他者との関わりの中で、現状を把握し、集団の中での自分の役割を自覚し課題を見出すことができる。	資料をもとに、現状との比較を通して分析することができる。	学んだことをまとめたり、発信したりすることにより、自分の中での学びをより広げることができる。
高等学校	世界の諸問題に当事者として関わっている自分を知ることができる。	世界の現状や動きをシステムとして捉えることができる。	諸問題の解決に向かう社会を、システムの中に創造することができる。
具体的な評価方法	・ワークシート	・意見交流の中での相互評価	・ワークシート ・プレゼンテーションの内容

(3) 小中高安全科・総合的な学習の時間での12年間の階層性・系統性・連続性

安全科・総合的な学習の時間では、今までに学んできた各教科の学びを横断的に活用しながら、身の回りにある様々な問題状況について、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく児童・生徒の姿が期待される。

問題をよりよく解決するための力は、児童・生徒が地域に出かけたり、様々な体験活動を行ったり、多くの人と出会ったりして学んでいく。それは、従来から必要とされてきた基礎学力や専門知識などにとどまらない力のことを指す。

児童・生徒は地域の様々な人との関わりを通して、期待されることの喜び、信じることや協力することの素晴らしさなどを実感していく。こういった活動が、子どもたち自身の自尊感情を育てていくことにつながる。

「自己を知り、他者を受け入れ、関係性の中で課題に取り組み積極的に生きてゆく力」を身につけていくために、「とらえる」「くらべる」「ひろげる」の三段階を中心に小中高とそれぞれの発達段階に応じた授業展開を行う必要があると考える。

「とらえる」（「知」の認識）とは、生活などから自分たちの現状（課題）をつかむことである。

「くらべる」（「知」の構造化）とは、資料をもとに、現状との比較を通して分析することである。

「ひろげる」（「知」の活用）とは、学んだことをまとめたり、発信したりすることにより、自分の中での学びをより広げることである。

小学校段階では、自分の身近な存在である家族・友人へと自分が学んだことを伝えることにより、自分は守られる存在であるという喜びを実感することが大切である。

中学校段階では、小学校段階で培った学びをさらに深化させ、発信し、地域へと活動の場を広げていくことが求められる。

高等学校段階では、中学校段階で培った学びをさらに深化させ、社会へと訴えかけながら、活動の場を広げていくことが求められる。

(4) 小中高12年間の安全・総合的な学習の時間 - 「知」をはかる評価に焦点を当てて -

これまで学んだ学習をもとに、学校全体だけにとどまらず、地域社会とも共存できるよう考えていく。小高と同様に、やはり、一概に数値のみで評価することはそぐわないと考える。授業での取り組み姿勢・行動面・自己他者評価等、多様な評価を考えながら、根拠をもとにした評価ができるよう考えていきたい。

2. 実践の概要 ～地域とつながる安全学習～

①対象：第3学年

②単元設定の理由

学校という場において、児童生徒等が生き生きと学習や運動等の活動を行うためには、児童生徒等の安全の確保が保障されることが不可欠の前提となる。また、児童生徒等は守られるべき対象であることにとどまらず、学校において、その生涯にわたり、自らの安全を確保することのできる基礎的な素養を育成していくことが求められる。

交通安全の分野における安全教育はとりわけ今日の社会において重要視されており、学校生活においても、通学路における交通安全は課題の一つといえる。交通事故は、「人」、「道路環境」、「車両」の三つの要因によって発生するものであり、中でも「人」の要因は大きく、交通安全教育(啓発)は極めて重要かつ効果的な交通安全対策の一つである。

本校生徒の登下校や学校生活の様子を見ると、安全に関する知識・技能はある程度は身につけているものの課題も残る。その根底にあるものは安全意識の継続性の欠如である。

自ら危険を予測し、回避するためには、知識とともに、習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速な行動をとれる力を身につけることが必要である。そのためには、日常生活においても状況を判断し、最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を育成する必要がある。また、中学時代は自発性が培われ、自身で行動、他にも目配り、気配り、発信していく力が飛躍的に伸張する時期であり、「主体的に行動する態度」が育まれやすい。

本単元では、通学路周辺地域の安全の見直しを通して、地域社会の中で生きる上での交通安全について自発的に考えることができ、行動することができるようにKYT学習も取り入れ、歩行者のみならず、運転者の視点からも考えることができるように配慮していきたい。その中で、交通安全に対する意識や判断力を育成する基となる力を養いたい。

③単元の目標

- ・自分たちの住む地域や行動範囲内で起こる交通安全について考えようとする姿勢を養う。
- ・自分たちの住む地域や行動範囲内で起こる交通安全について理解する。

④評価規準表

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自分たちが遭遇する可能性のある危険の情報を基に他者と交流し、意見を述べようとしている。	情報収集や意見交流を行い、考え、その情報に基づいた判断・行動することができる。	様々な情報の収集を行うことができる。	様々な場所で想定されている危険性について知る。

⑤指導計画 (全5時間)

第1次 身の回りの安全について考える

①校内の安全(1時間)

②学校周辺地域の安全～私たちの通学路を中心に～(2時間)

第2次 みんなが安心して登下校できる安全な地域づくりをめざして(2時間)

・・・本時はその1時間目

⑥本時

(1) 目標

- ・自分たちが生活する地域での安全についてどのような対策が必要か、また自分たちがどのような行動をとればよいかを考えることができる。(思考・表現)
- ・自分たちが生活する地域でどのような危険性があるかを知る。(知識・理解)

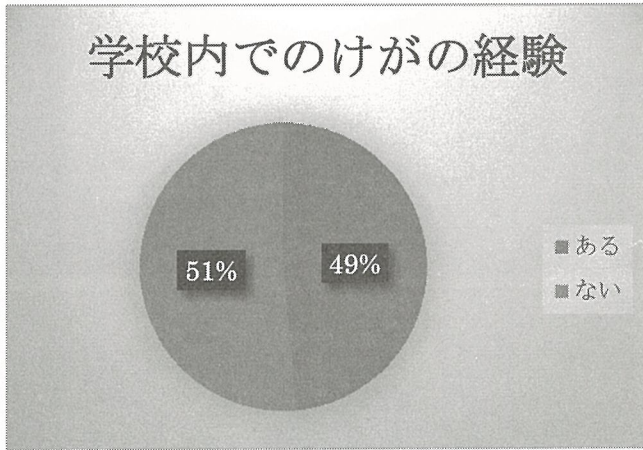
(2) 展開

学習過程	学習活動および内容	・指導上の留意点 ○手立てが必要な生徒への支援	評価の観点
導入	1. 資料の準備と前時までの内容の振り返り	・危険箇所をまとめた通学路を含む学校周辺のマップを提示しながら振り返りを行わせる。	
展開	2. 学校周辺地域のマップや前時までの資料をもとに、安心・安全な地域づくりに必要なことを考え、まとめている。 3. グループ毎に考えた内容を交流する。 4. 交流の内容もふまえて、再度グループで意見交流しながら、まとめている。	・自分からの視点だけでなく、地域の人(第三者)の視点でも考えるように促す。 ・グループ内で意見交流しながら、まとめさせていく。 ・現在の通学路に関して適切であるかどうかあわせて検証させる。 ・考えた過程を大切に、根拠をもって発表させる。 ・自分たちが地域の人々と共存し、安心・安全な地域をともにつくっていく中で考えなければならないこと、留意しなければならないことを意識しながらまとめさせる。	自分たちが生活する地域でどのような危険性があるかを知ることができたか (知識・理解) 自分たちが生活する地域での安全についてどのような対策が必要か、また自分たちがどのような行動をとればよいかを考えることができるか (思考・表現)
まとめ	5. 本時の振り返り ワークシートに記入	・交通安全の観点から、安心・安全な地域づくりに必要なことを確認させる。	



3. 成果と課題

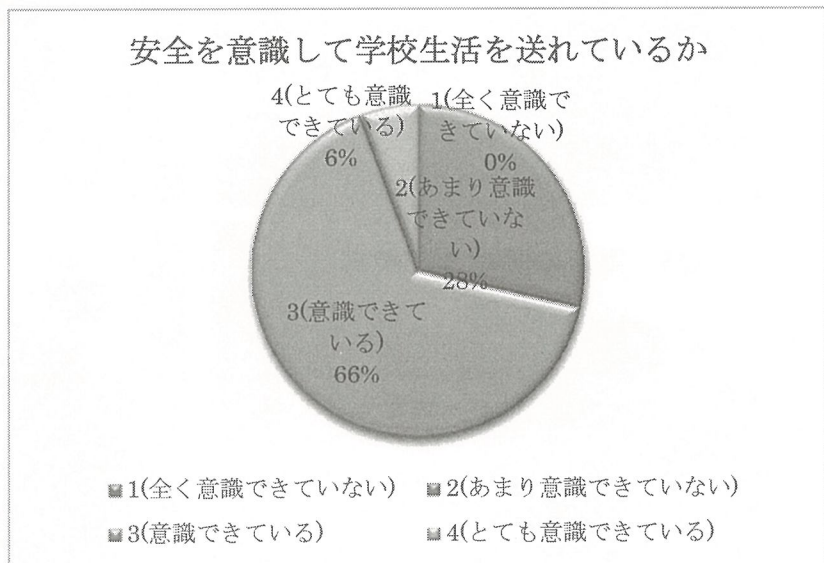
1 時間目 校内の安全について 身の回り，普段の生徒会活動等の振り返り
(授業アンケート①より)



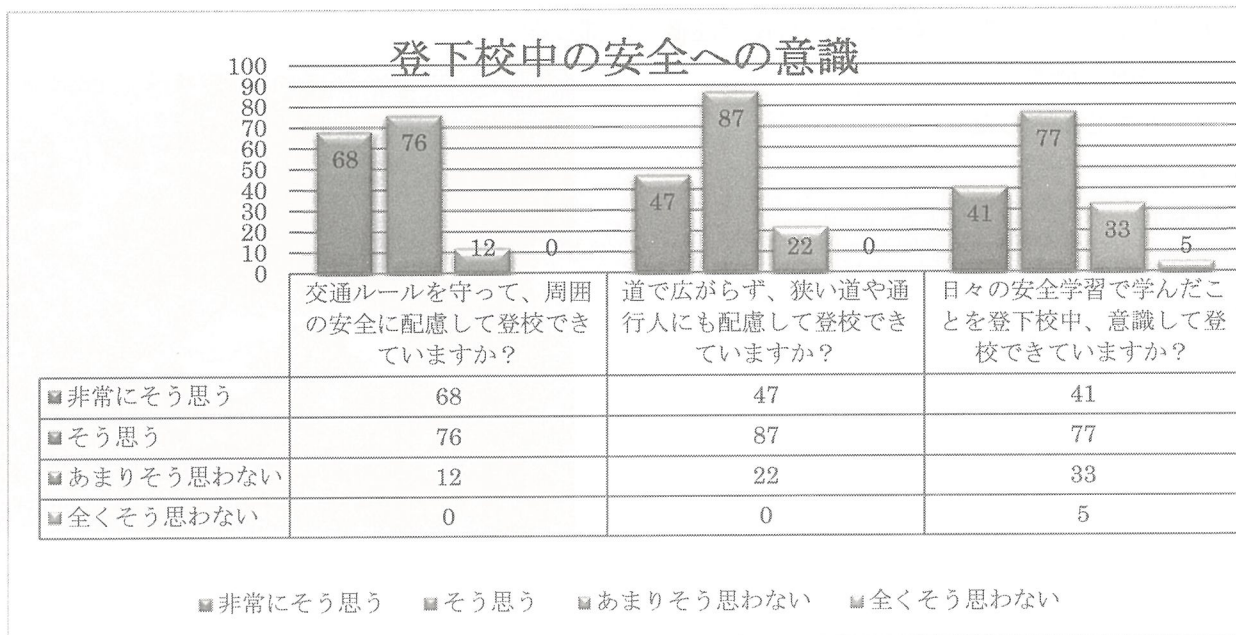
- 例
- 廊下で滑る
 - 階段でこける
 - ロッカーの角
 - 中庭の段差で転ぶ
 - ドアに手をはさむ
 - トイレで滑る
 - 体育館舞台の後ろに落ちる
 - 黒板の下で頭打つ
 - ワックス塗った教室で転ぶ

生徒会としての学校安全の取り組みへの意識

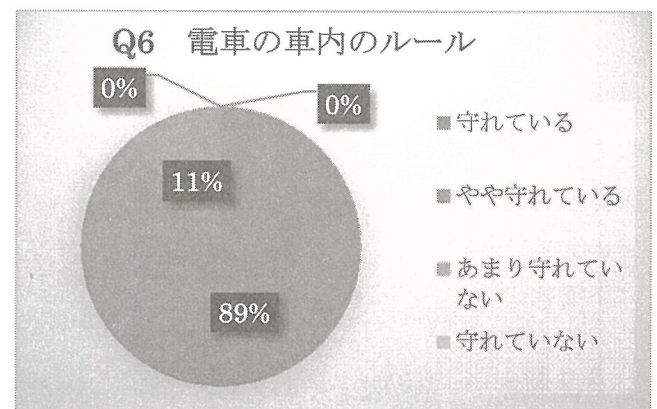
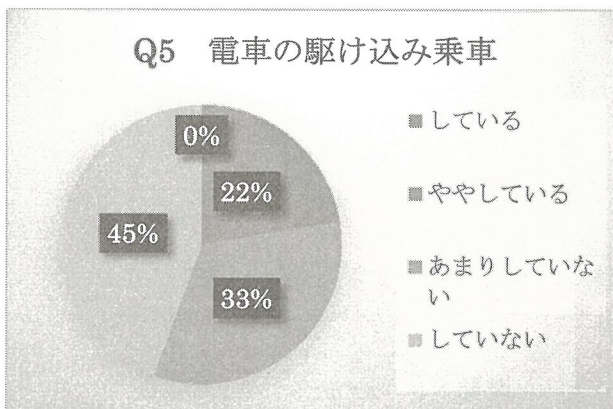
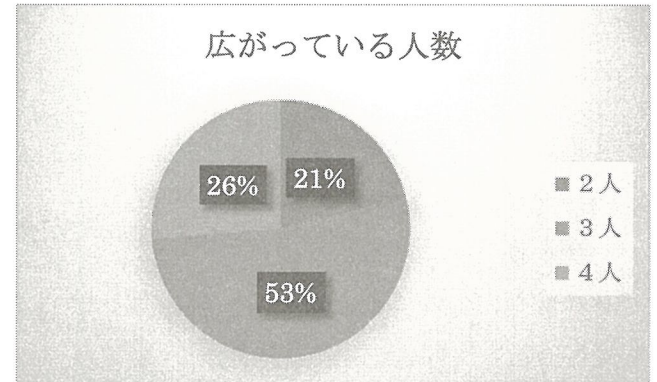
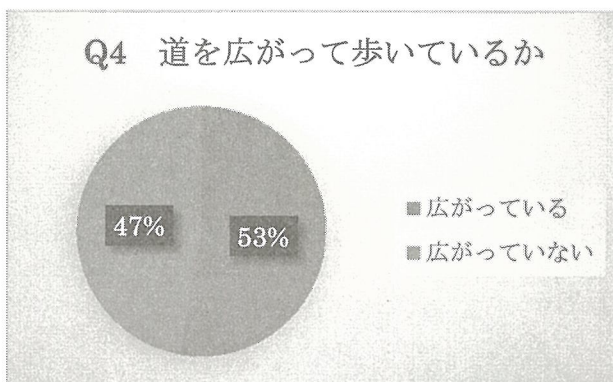
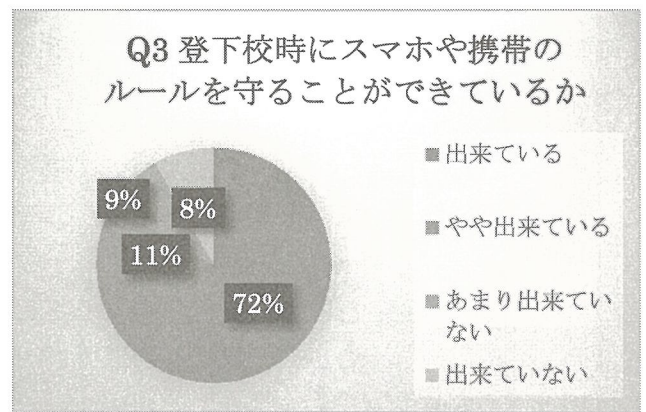
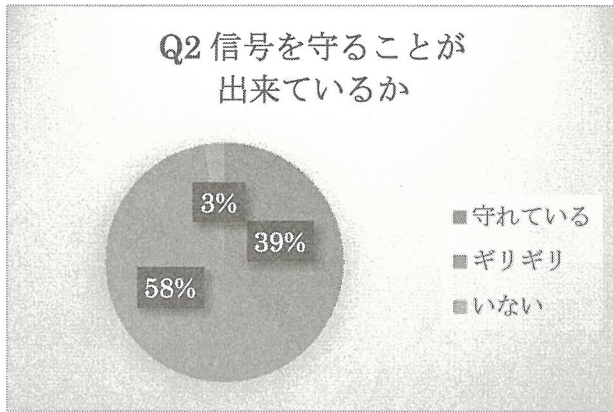
- コーナガード
- ペンキ塗り
- I. S. S. S. P. S.
- 窓の衝突防止シール
- いじめ・生活アンケート
- いろんなポスター
- 生徒への呼びかけ
- 保健室前のポスター
- フェンスの改修
- 下校放送
- など



2, 3 時間目 通学路を中心とした学校周辺地域の安全 (授業アンケート②より)



(生徒会安全委員会作成アンケートより)



Q7 気になることなどあれば・・・ 自由記述欄 一部抜粋

寄り道・漫画・携帯

申し訳ありませんでした

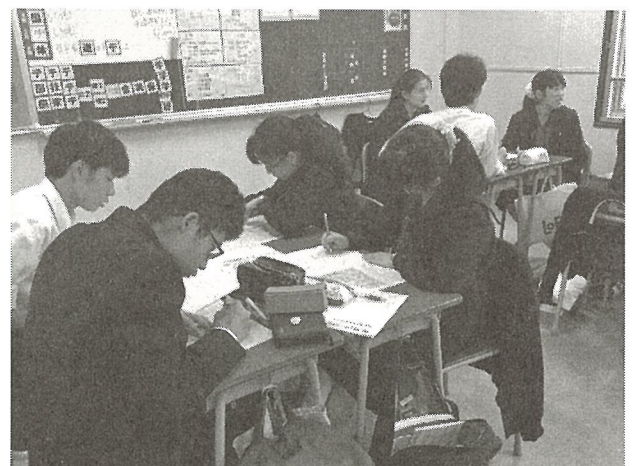
自販機

市民の邪魔

傘が通行人に当たる

暴言

etc.



(発表後の授業アンケート③より)

授業アンケート③

学んだことを生かし、行動(登下校、生活)ができるか

35

4

新たな発見があったか

36

3

潜む危険性、原因、解決策についてしっかり考えたか

36

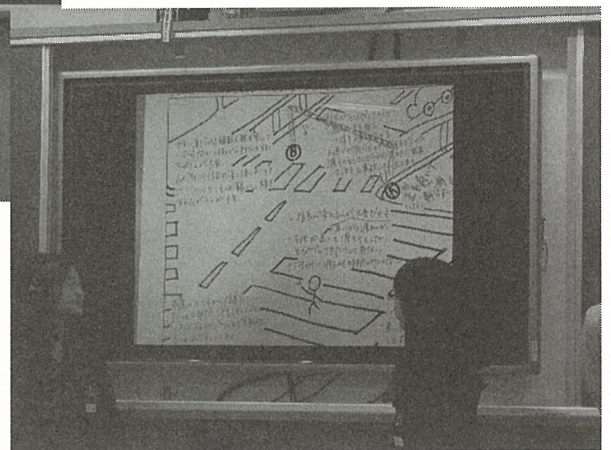
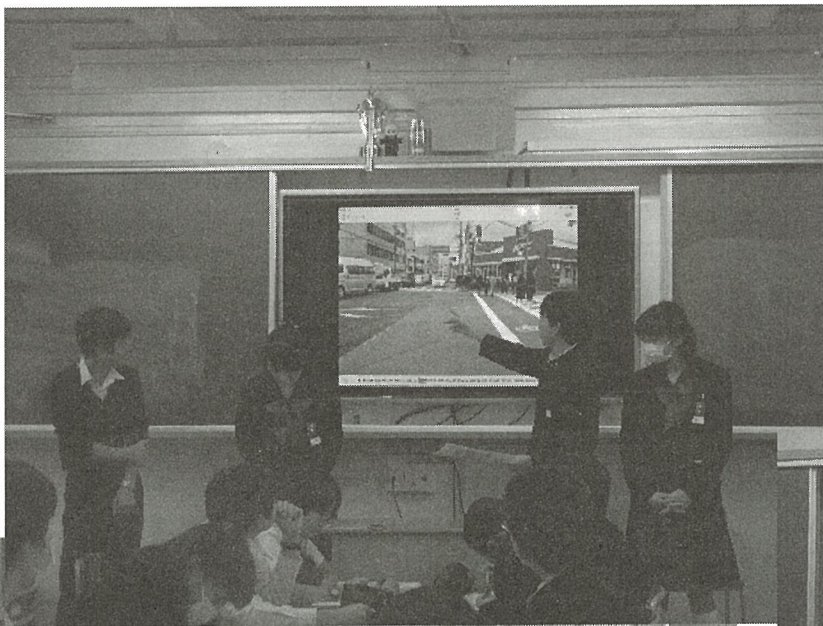
3

積極的に意見交流できたか

34

5

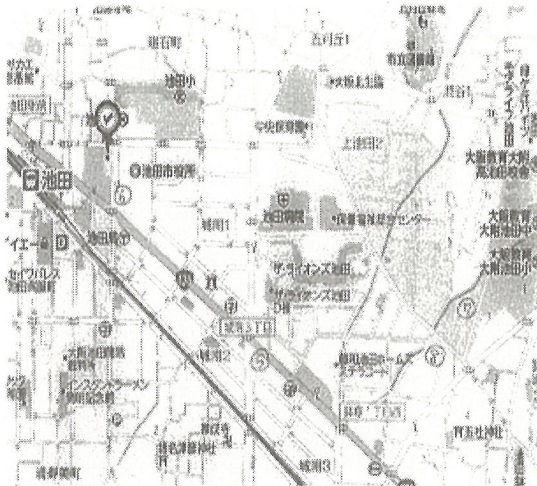
	積極的に意見交流できたか	潜む危険性、原因、解決策についてしっかり考えたか	新たな発見があったか	学んだことを生かし、行動(登下校、生活)ができるか
■非常にそう思う	34	36	36	35
■そう思う	5	3	3	4
■あまりそう思わない	0	0	0	0
■全くそう思わない	0	0	0	0



安全学習プリント①

3年 A 組 産 名 前

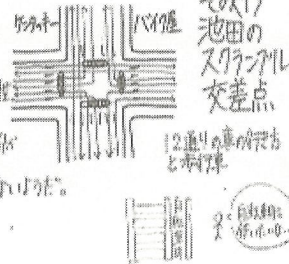
通学路に潜む危険性について、池田駅から新島池田中学校までのマップをもとに考えてみよう。



◎危険箇所⑤

パチ屋の前の交差点

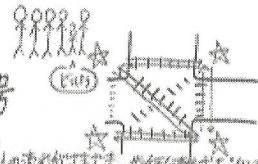
どのような危険性があるか
 信号をすり抜けるから、
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 (自転車)の視点から考えてみる
 歩行者も車も、自転車の道端に歩行者が
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。



◎危険箇所⑥

駅前の信号

どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。



その②
池田のスクランブル交差点

◎危険箇所⑦

けやき坂

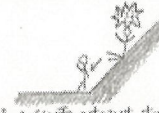
どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。



◎危険箇所⑧

急な坂道

どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。

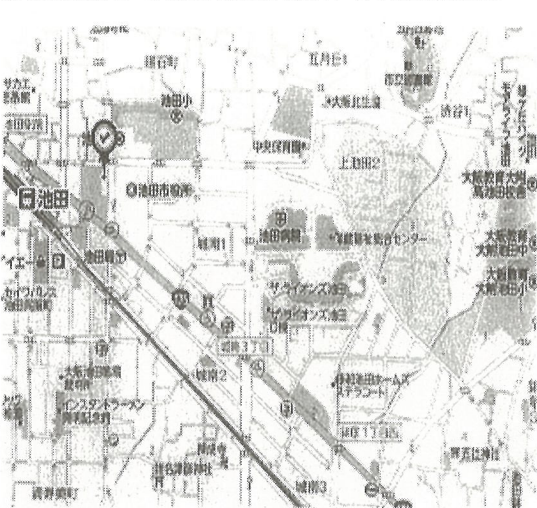


1枚目

安全学習プリント①

3年 A 組 産 名 前

通学路に潜む危険性について、池田駅から新島池田中学校までのマップをもとに考えてみよう。



◎危険箇所①

どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。

◎危険箇所②

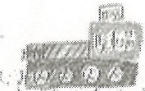
池田駅メインの交差点(16号の明走)

どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。

◎危険箇所③

ロータリーと信号の交差点(16号の明走)

どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。



◎危険箇所④

パチ屋の前の交差点(16号の明走)

どのような危険性があるか
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。
 歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。歩行者の通行が止まる。

◎このような危険性があるか、その理由（より多くの視点から）

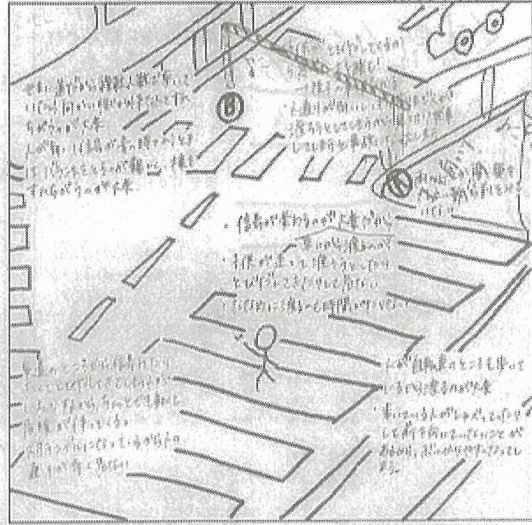


◎わたしからの提案

- * 信号は作る。
 - 歩行者 音が聞こえたら 走るのを早急にする。
 - 自転車 → 歩行者の安全に配慮 遅延の妨げを減らす。
- * 道を開ける。
 - 歩行者 信号が赤で待てる時 左右の道を開ける。
 - 自転車 狭い道では 歩行者が来た時 向かいの歩行者に道を譲る → 接触が起きる。
- * 道の目線を気にする。
 - 歩行者 狭い道では 歩行者の視線を誘導する → 接触が起きる。

一歩の危険
一人の歩行者
自転車の存在

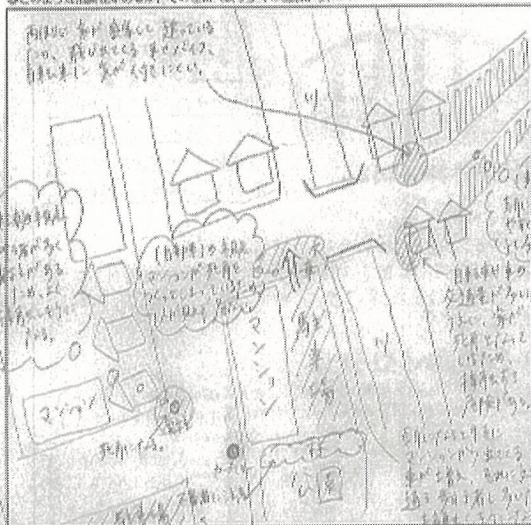
◎このような危険性があるか、その理由（より多くの視点から）



◎わたしからの提案

- ① 歩行者の安全を確保する。
 - 歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。
- ② 歩行者の安全を確保する。
 - 歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。

◎このような危険性があるか、その理由（より多くの視点から）



◎わたしからの提案

- 歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。
- 歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。歩行者の安全を確保する。

◎このような危険性があるか、その理由（より多くの視点から）



◎わたしからの提案

- ① 歩道と車道の区別を明確にする。
 - 歩道と車道の区別を明確にする。歩道と車道の区別を明確にする。歩道と車道の区別を明確にする。
- ② 歩道と車道の区別を明確にする。
 - 歩道と車道の区別を明確にする。歩道と車道の区別を明確にする。歩道と車道の区別を明確にする。

“通学路周辺地域の安全”という同じ題材を扱って、小学校の安全科で行った授業を改めて中学3年生で行う形となった。“自分自身がどのように行動するか”から、“車両(車・バイク)・歩行者・地域住民など身の回りに関わる多くの視点(第3者)の視点もふまえて自分自身がどのように考え行動すればよいか”,小学生から中学生の発達段階で,“自助”の視点から“公助”の視点で考えられるように,働きかけ,生徒たちの大きな成長過程がみられた。

「単元設定の理由」で述べた通り,本校生徒の登下校や学校生活の様子を見ると,安全に関する知識・技能はある程度は身につけてはいるものの課題も残る。その根底にあるものは安全意識の継続性の欠如である。自ら危険を予測し,回避するためには,知識とともに,習得した知識に基づいて的確に判断し,迅速な行動をとれる力を身につけることが必要である。そのためには,日常生活においても状況を判断し,最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を育成する必要がある。中学時代は自発性が培われ,自身で行動,他にも目配り,気配り,発信していく力が飛躍的に伸張する時期であり,「主体的に行動する態度」が育まれやすい。中学生の段階でも改めて,通学路周辺地域の安全の見直しを通して,地域社会の中で生きる上での交通安全について自発的に考えることができ,行動することができることを授業のねらいとした。

生徒の感想にもあったが,生徒の意識の中に,「安全は自分自身で考えつくっていくもの」という意識が芽生えたことは,収穫であったと考える。安全学習もカリキュラム化して,継続して取り組んでいくことにより,生徒一人ひとりの意識の中に,安全への意識が根付き,行動が変容していく。

今後の課題として,可能であれば,地域住民にアンケートをとり,自分たち自身がどのように地域社会にうつっているのかも意識できるようになれば,そこから本当の意味での「地域とつながる」ことができるのではないかと考えている。

